

看護専門科目	広域発展看護学					
看護学科	選択	1 単位	講義	平成30年度	前期	4 年次
科目名	がん看護論 Cancer Nursing					
担当教員	松井利江					
目的	がんの治療期にある患者と家族に対する理解を深め、がん治療を受けながらその人らしく生活するための看護を検討する。					
目標	1. がん治療をうける患者と家族の身体的・心理的・社会的特徴を理解できる。 2. がん治療を受けながら社会生活を営む患者とその家族に必要な看護を考えることができる。 3. がん患者と家族をめぐる諸問題と、それらを解決するための看護師の役割を考えることができる。					
他科目との関連	既習の「共通基盤看護学概論Ⅰ・Ⅱ」「共通基盤看護学実践論Ⅱ」「共通基盤看護学実習Ⅱ・Ⅲ」、4年次後期の「緩和ケア論」等と密接に関連する。					
評価方法	項目	評価の内容				評価の比率
	筆記試験	定期試験				0.8
	レポート	事例学習レポート				0.2
評価基準	総合の得点100～90点を秀、89～80点を優、79～70点を良、69～60点を可と評価し、合格とする。59点以下は不可と評価し、不合格とする。					
教科書	教科書は指定しない。適宜資料を配布する。					
参考資料	黒田裕子編「成人看護学第2版」医学書院 小松浩子編著「系統学看護学講座別巻 がん看護学」医学書院 片岡純編著「外来がん看護 エンパワメント支援の理論と実際」すぴか出版 小澤桂子ほか「理論が実践につながるステップアップがん化学療法看護」学研 Kenneth D. Miller MD著，勝俣範之訳「がんサバイバー 医学・心理・社会的アプローチでがん治療を結いなおす」医学書院					
備考 (受講上注意、事前学習等)	共通基盤看護学実践論Ⅱの学習内容が十分理解できていることを前提とする。					